

定例教育委員会【議事録】

日 時 令和5年12月12日(火)
9時30分～

場 所 岡谷市役所6階 605会議室

署名委員 太田教育長職務代理者
小平教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン後期5カ年計画(素案)について【資料No.1】
(教育総務課)
2. 岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン ハード整備版(素案)について【資料No.2】
(教育総務課)
3. 市立岡谷図書館の開館時間について【資料No.3】
(生涯学習課)

○ 報 告

1. 令和6年二十歳を祝う会について【資料No.4】
(生涯学習課)
2. 年末年始休業中の学校完全閉庁日について【資料No.5】
(教育総務課)

○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、
教育委員 小平 陽子、教育委員 林 慎太郎、教育委員 轟 美緒

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主幹指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、
教育総務課学校教育主幹 味澤 勝一、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、
図書館主幹 増沢 洋子、生涯学習課青少年主幹 長門 哲、
川岸学園設立準備室川岸学園設立準備主幹 新村 尚志、教育総務課主任 大島 俊輔

<会議録>

○開 会

宮坂教育長： それでは、ただいまより令和5年12月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は太田教育長職務代理者、小平教育委員にお願いいたします。

○教育長報告

宮坂教育長： はじめに私から報告をいたします。

12月になり、大雪と呼ばれる時期になりました。少し雪が舞う日もありましたが、昨夜は非常に強い雨が降っておりました。

我が家にはバラがありますが、寒に入りオールドローズが咲き始めました。7月頃に咲く花と比べると、この時期の花はとても花持ちがよく、白色の花が重なり、清楚な花だと感じております。

続きまして子どもたちの様子から報告をいたします。各校で音楽会がありました。上の原小学校、小井川小学校、岡谷東部中学校、岡谷北部中学校の音楽会を参観しました。上の原小学校以外はカノラホールでの参観でした。音楽会は各校の学校文化を表していると感じました。行事で育つ子どもたちと、それを一生懸命支えて演出する先生方がいます。行事の中で意図的に子どもの成長を願い、仕組んでいくことが大切だと思います。工夫された企画運営がされており、参加が難しい子どもにも、どこかで参加ができるように工夫されていました。中学生の歌声など、様々なことが心に響きました。そして保護者の皆様の熱いまなざしや地域の方の和やかな姿が心に残りました。6年生の交歓音楽会もございました。中学校の校長先生方や教育委員の皆様にも参観いただくことができました。各校の校歌も素晴らしいですし、歌う子どもたちの姿もとても良いと感じました。6年生が一堂に集う大切な機会なので大切にしたいと思います。

湊小学校では150周年記念式典が行われました。どの学校もそうですが、湊小学校は地域の皆様に支えられている学校だと感じました。小平奈緒さんの講演では、子ども向けに自分の体験、経験等を語られました。

「自分の気持ちに蓋をしない。泣きたいときは泣き、怒りたいときは怒る。」

というお言葉がありました。まず自分の気持ちを素直に出すことの大切さを考えさせられました。

先日行われた英語のスピーチコンテストは、感動のコンテストでした。当日の子どもたちの緊張感は、練習を重ねてきた故の緊張感だと思います。自分の体験や経験を振り返ってスピーチの原稿を作っています。貴重な体験だったと思います。見つめる保護者や仲間の姿も良かったです。ALTの先生が、生徒の発表が終わるとガッツポーズをしていて、とても良

宮坂教育長：

いと思えました。子どもにとってそれは1つの自信になると思えます。

続きまして生涯学習課からの報告になります。岡谷市文化祭の1つとして実施している、岡谷市美術会の公募展「第57回岡谷展」が11月9日から12日までカルチャーセンターで行われました。芸術の秋にふさわしい見応えのある作品95点が出品され、その中から賞に選ばれた21点の授賞式が11日に行われ、私も参加いたしました。昭和42年から57回続いている公募展です。日本画を始めとした6部門の作品が出展されていきました。心が動く素敵な作品ばかりで、見に来て良かったと思えました。

10月に始まった岡谷市文化祭は11月23日、25日、26日に開催された「岡谷演劇祭」をもって終了となりました。関係者の皆様大変お疲れ様でした。新型コロナウイルスの5類移行に伴い、参加団体数、参加作品数ともに昨年度を大きく上回り、大変充実した文化祭になりました。

日頃の活動の成果を存分に発揮していただき、多くの皆様に新たな発見や感動を届けることができたのではないかと考えています。来年度さらにパワーアップした岡谷市文化祭の開催を楽しみにしております。

最後にスポーツ振興課関係を報告させていただきます。

第76回全日本バレーボール高校選手権長野県大会について報告させていただきます。11月12日に長野市のホワイトリンクで行われました男子バレーボール競技は、決勝で岡谷工業高校が松本国際高校を破り、2年ぶり30回目の春高出場を決めました。

序盤から一進一退の攻防が続く好ゲームでありましたが、粘り強くボール拾う展開に持ち込んだ岡工が、逆転で勝利を引き寄せ、6月の県高校総体決勝で敗れた宿敵に雪辱を果たしました。

今回の優勝は、日頃から厳しい練習に耐え、負けない強さを意識しながら取り組んできた成果が身を結んだものと大変うれしく思っております。来年1月4日から東京体育館で開催する「春の高校バレー」では、岡工の初戦は秋田県代表の雄物川高校との対戦が決まっております。

全国の舞台での活躍を大いに期待するとともに、伝統の粘り強いバレーを見せてくれることを心から願っているところであります。

それでは本日の議題に入ります。議題1「岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン後期5カ年計画（素案）について」を事務局から願います。

○議 題

1. 岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン後期5カ年計画（素案）について

＜資料1に基づき、事務局より説明＞

宮坂教育長： ありがとうございます。説明でもありましたが、今回と1月定例教育委員会の継続協議になります。日頃から大切に考えていることや、疑問に思っていることがあればご意見としていただきたいと思います。

太田教育長職務代理者： 多岐に渡る内容なので、内容が前後してしまうかもしれませんがよろしくをお願いします。

20ページの「親支援と家庭教育力の向上」について、なかよしプログラムを組み込んでいただきました。嬉しい気持ちと同時に、驚きもしております。責任感を持って今後も協力をしていきたいと思っております。まずは体制の整備を進めたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

14ページの「教職員の働き方改革、校務改善」につきまして、教員業務支援員の配置について表記がありますが、これは非常に大切だと思います。私の認識ですと、これらは県からの派遣がメインで、市が独自で出来る余地は限られているような気がするのですが、その点はいかがでしょう。

事務局（両角）： なかよしプログラムは、岡谷市教育委員会の特徴とも呼べます。他の市町村にはない独自の取り組みだと思います。我々も大切にしたいという思いがあります。引き続きご協力をお願いします。

教員業務支援員につきまして、国の働き方改革の制度です。授業ではなく先生の補助をするもので、コロナ禍前から配置がありました。手上げ方式で、最初は1校で配置をしました。しかしコロナ禍になり、あらゆる業務が感染症対策と同時進行になり、先生の業務がより多忙化したことから、国の予算により全校に配置された経過があります。数年たつと予算的な面から全校配置が難しくなり、学校規模による配置の制限が設けられました。岡谷市では学校規模が大きくても小さくても業務が多忙化していることは変わらないと判断し、県の配置が無い学校にも、市費による配置をしてきました。今年度も、県からの配置が無かった3校については、市費による教員業務支援員を配置しており、全校に教員業務支援員がいる状況です。

太田教育長職務代理者： 予算さえ伴えば、市でも独自に対応できるということでしょうか。

事務局（両角）： 国の概算要求でも、全国すべての小中学校への配置となるように要求をしてもらっていますが、予算折衝の中でどのような結果になるか分かりま

事務局（両角）： せん。市教育委員会としては引き続き継続をしたいと考えております。

太田教育長職務代理人： ありがとうございます。次に15ページ「教育DX推進と学校ICTの活用」につきまして、教育DX推進と学校ICTの違い等が分かりません。全体を通して言える事ですが、用語説明をつけていただきたいと思います。

事務局（両角）： 最も上位に置くべき概念はDXです。デジタル技術を活用した業務改善がDXです。その中にICTの活用も含まれており、情報機器を上手に活用していく、というハード的な部分です。全体的な取り組みと、その中に情報機器の整備と活用が含まれています。

更に1人1台端末が全国で推進されていますので、その部分を抜き出して施策化しました。ICTとGIGAスクールは同種ですし、その上にDXという大きな目標があります。

太田教育長職務代理人： ありがとうございます。次に18ページ「岡谷版コミュニティスクールの充実」ですが、国が推進する学校運営協議会の要素、とありますが、いまあるコミュニティスクールと何か異なるのでしょうか。

事務局（両角）： こちらも用語解説があれば紐解きやすかったかもしれません。次回までには準備しておきます。

コミュニティスクールですが、「・」が付いているものと付いていないものがあります。「コミュニティ・スクール」は国型で、「コミュニティスクール」は信州型のコミュニティスクールに該当します。国が推進する「コミュニティ・スクール」は、学校運営協議会にて市民の参画により、会社でいうところの取締役会のようなものを地域に作っていく内容になっています。学校運営に意見をいただく際に、市内では学校評議員を配置しておりますが、例えばそれ以外にも本の読み聞かせや、見守り隊や放課後の居場所づくりなど、様々な形で学校運営に参画してくださっている方がいます。それらを連合体にしていくのが信州型です。国型は人事に対する意見の申し入れなど、より責任ある形を取っています。長野県では今まで作り上げてきた地域とのつながりを大切にしており、岡谷も信州型に則した岡谷版コミュニティスクールを全校で行っております。ただし、現在は信州型コミュニティスクールも学校評議員もいる状況で複雑化しています。先進校を拝見すると、体制を見直して地域との繋がりを太くするなど、時代に合わせた切り替えがされています。岡谷市も体制を整理して新しい形への移行について検討を進める内容を含めています。

小平教育委員： 全方位に手が届いている内容になっていると思います。

教育DXの箇所につきまして、先ほどの説明でDXとGIGAスクール、ICTの関係性が分かりました。業務改善という言葉がありましたが、コロナ禍

小平教育委員： で有効活用ができたと思いますし、先生方の負担軽減にもつながっていると思います。過去の定例教育委員会の資料で、岡谷市のICT機器の活用が不足しているという内容がありました。忙しい中、授業に新しい機器やシステムを取り組んでいくのはとても大変だと思います。現状の先生方の活用状況や、市からはどのような方針が出ているか、今後の取り込みについて教えてください。

次に、そもそもプログラミング的思考を育むことと、実際にプログラミングする技術は少し異なると思っています。子どもたちがどのようなことができるようになっていくか想像ができないので現状を教えてくださいませんか。

事務局（濱）： 全国と比較してICT機器が活用されていないことを全国学力・学習状況調査の際に触れましたが、その調査結果は今年4月に調査した内容であり、昨年度までの状況を振り返った結果となっていますので、今年度の活用状況は反映されていません。先日、中学校の授業で社会と理科を参観しました。1人1台端末を活用して、複数のアプリケーションを使い分けながら学んでいました。若い先生が担当している授業で、前向きにICTの活用をしている姿が見られました。ですが先生によって活用能力の差があると、学校側も認識していますので、活用が得意な先生から少しずつ学校全体に有効活用できるよう進めているところです。さらに市でも年に数回学校を訪れて、ICT活用の研修を行っています。まずは先生方が活用する能力を高めて、子どもたちがICTを活用する場を設けることを進めています。

事務局（両角）： 情報活用能力を高める事は、学習指導要領でも大切にしている部分です。今は紙の教科書と黒板を用いた授業から、情報機器を活用する時代へ変わっている過渡期です。岡谷の場合は、毎日すべての授業でICT機器を活用するのではなく、段階的に活用の機会を増やしている状況です。いずれは学校教育の中で、当たり前にある道具になります。授業の中でデジタル教科書を活用したり、いじめなどで子どもが悩んでいるときの情報交換ツールとしても活用ができるように環境を整えていく流れがあります。多様な場面でICT環境の充実が図られていくと思います。

小平教育委員： 学校を見学すると、電子黒板も良い形で利用されていると感じます。先生によって活用状況に差があることは、今後改善されていくと思います。また、子どもたちが上手に使っている場面もあるようなので、子どもと先生と一緒に取り組むニュアンスを含めても良いと思いますし、いじめのSOSの他にも、アート系やスピーチ関連で、自分から発信をする力も強化できれば良いと感じました。

小平教育委員： 次にヤングケアラーにつきまして、実態把握はどのようにしているのでしょうか。

事務局（両角）： これは長野県が実態把握を進めています。ヤングケアラーという言葉自体が最近クローズアップされています。昔からお手伝いをしたり、兄弟の面倒をみる環境は、当たり前のように日常生活の中にあっただけですが、それらによって学習ができなかったり、望むべき教育環境が保てないとなっているのならヤングケアラーとして対応が必要であると思います。本人が自覚していないパターンもありますので、本年度実態調査がされている状況です。

藤森教育委員： 前期を総括したうえで後期に反映するというところで、教育全体に関わることなので資料内容は多岐に渡っております。資料で後期に追加した内容をまとめたものがあると、議論がしやすいと思いました。

重点目標2に「ふるさと学習」の推進と地域に開かれた学校づくりで、岡谷スタンダードカリキュラムについて触れていただいています。岡谷スタンダードカリキュラムがスタートしたのが6年程前だったと記憶しています。具体的な成果や、課題に感じていることがあれば教えていただきたいです。

事務局（濱）： 岡谷スタンダードカリキュラムは、小学校の統合のタイミングに、魅力と活力ある学校づくりに向けて作られました。320のコンテンツがあり、市内小中学校の先生方に活用していただいています。数で把握している訳ではありませんが、毎年各校の実践状況をまとめていただいております。全11校で着実に実践をしていただいております。特徴のある活動については実践事例として先生方に共有をしております。シルクや諏訪湖に関わる学習を各校で学習している様子が分かりますし、岡谷のスタンダードな学習として定着しつつあると感じています。新たに赴任された先生にも活用してもらえるように学びの創生・連携支援室でも支援をしたいと考えています。

藤森教育委員： 岡谷ならではの内容になっていると思います。後期5か年も充実した内容にしていただければと思います。年度が替わると新たな先生もいらっしゃいますので、継続して実践できるようにベースを作ることが大切だと思います。ぜひ学校同士でも連携して充実していただきたいです。教育を通じてこれから未来を担う子どもたちに、自分たちが育った故郷を知ってもらい、将来的に故郷回帰してもらえればありがたいですし、岡谷をバックボーンに世界に羽ばたいていっても良いと思います。故郷に誇りがある子どもたちが育てば嬉しいです。

藤森教育委員： KPIの部分で、将来に夢や希望を持っている児童生徒の割合や、地域の行事に参加している児童生徒の割合はこれで良いと思いますが、例えば岡谷市内の児童生徒の皆さんが、故郷に対して肯定感を感じているかが分かると思います。以前の定例教育委員会の中で、自己肯定感も大切だが、まちを好きになる、まち肯定感も大切という話がありました。子どもたちが故郷をどのように感じているかを捉えることは可能でしょうか。

事務局（両角）： 全国学力・学習状況調査の内容で評価をしておりますので目標施策の成果はダイレクトに出てきません。情報化が進み、市民アンケートなども以前よりは実施しやすくなっていますので、研究を進めたいとは思いますが、今回はこのようにまとめさせていただきました。

藤森教育委員： 分かりました。今後アンケート等も検討していただければと思います。

林教育委員： 前期計画策定の時は教育委員では無かったので、今後の全体的な流れを聞きしたいです。

事務局（両角）： 定例教育委員会のようなオープンの中で協議調整を重ね、報道でも取り上げていただく、という取り組みから始めています。住民代表である議会にも報告をして、その後は校長会を通じて保護者の皆さんにも周知をします。市の広報やホームページでもプラン策定を周知し、推進を進めるのが全体的な流れです。

林教育委員： 例えばボランティアなどの地域の方と連携を図るときに、実はこの事業は岡谷市のプランの重点になっている、などを一声添えていただけると5年後より良いものになると思います。

もう1点ですが、ICTの活用について、私の子どもも高校でタブレットを使って授業を行ったり、学校からの連絡が来たりします。子どもたちは上手に活用していると感じる一方で、親として不安を感じていることは、タブレットを用いると情報が一方通行になりやすい点です。生徒が先生に質問する機会が減ることを懸念しています。この計画を進める中で、柔軟性のある活用をしていただければと思います。

轟教育委員： ICT活用につきましては、私が授業を参観していた時代と比べると、かなり進んでいると感じています。しかし、使いこなせてしまうが故の不安があります。知識や技術が学べるので必要性がある一方で、危険性も同時に伝える必要があると思いました。

宮坂教育長： ありがとうございました。次回も継続で協議をお願いします。

ICT活用について、学校現場では子どもが先に習得することもありますし、業務改善の視点から見ると、先生方や特に教頭先生の業務改善には大きく貢献していると思います。私が教頭の時はいんフルエンザが流行った

宮坂教育長： ときは、土日の動きを作ります。金曜に紙ベースのお便りを出して、感染した時は担任に連絡が来るようにして、担任から教頭に連絡が来るような流れでしたが、今はアプリでそれらができます。先生方の本務である子どもと触れ合う時間が増えれば嬉しいです。

岡谷のスタンダードカリキュラムにつきまして、当初は「岡谷のひと、もの、ことに触れる」となっていたのですが、途中から「こころ」が追加されました。人権、心の問題、道徳や他者を思いやる心にも取り組んでいきたいと思っているところです。

今回委員さんから頂いたご意見を踏まえ、次回委員会にて、計画（案）としてご協議いただきたいと思います。

続いて議題2に進みます。

議題2「岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン ハード整備版（素案）について」を事務局より説明をお願いします。

2. 岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン ハード整備版（素案）について

<資料2に基づき、事務局より説明>

太田教育長職務代理者： このハード整備版で、長寿命化を中心の考え方として中心に置くことは賛成ですし、そのように進めていただきたいと思います。予算等の問題もあると思いますがどうぞよろしくをお願いします。

5か年計画の後半あたりで、学校は子どもたちの学びの場所に留まらず、地域の皆さんも活用していただけるハード整備も必要になるかもしれません。

藤森教育委員： 拝見すると市内の学校設備が50年近く経っているものもあり、少子化と合わさって非常に難しい問題だと思いました。財源の確保も難しいですし、全体を見た時に舵取りも難しい世の中だと思います。

長寿命化を基本に考える事は賛成です。岡谷市に限った話では無く、国全体に言える事ですが、ピンチをチャンスに変えるような考えも必要かと思っています。どうしても人口が減り子どもも減っているとネガティブな話に陥りがちですが、その状況の中で、岡谷市としていかに魅力ある学校ができるか、議論を重ねていくことが大切だと思います。

小平教育委員： 少子高齢化が進んでいて将来どうなるのかという不安はありますが、長寿命化の計画を立てていただいていることはありがたいと思います。ララオカヤを見ると、大きな建物を建築した後は維持が大変だと思います。子どもたちが明るく過ごせるような未来を今から考えていただきたいと思います。

小平教育委員： す。計画を市民の方が見た時に納得できる内容になっていると感じましたが、プールの合理化についてはどのようにお考えでしょうか。送迎バスが出ているのでしょうか。

事務局（両角）： 送迎は市の庁用バスを使えるように調整しております。移動手段を確保して授業を進めてもらっています。

小平教育委員： 一般市民の方と一緒に施設を利用する姿も良いと思います。時代の変化でどうなるかは分かりませんが、大勢で集まって授業することも、個々にICTを活用して授業を受ける未来もあると思います。子どもはもちろん、大人にとっても良い環境になるという期待を持ってました。

轟教育委員： 私も息子も、岡谷小学校の閉校に深く関わったため、資料を見ると近い将来同じようなことが起きる可能性もあると感じました。ハード面は大きな予算もかかります。

授業で市民プールの利用を今年実施されたことはとても良いことだと思いましたが、学校で水泳の授業をしていた時と比べて回数に変化はあるのでしょうか。

事務局（両角）： 全体的に見てみると回数は少なくなっています。ただし中学3年生は水泳授業が選択式です。コロナ禍では水泳授業が全くできなかった時期もあり、久しぶりの水泳授業となっております。市民プールでの実施だけが、授業回数減少の要因になっているとは考えていません。

轟教育委員： 例えば温水プールであれば、時期に限定されずに実施が可能かと思えますので検討していただければ幸いです。

宮坂教育長： ご意見ありがとうございます。先ほどの推進プランと同様に、次回の教育委員会でも協議を進めたいと思います。

続いて議題3「市立岡谷図書館の開館時間について」を事務局より説明をお願いします。

3. 市立岡谷図書館の開館時間について

<資料3に基づき、事務局より説明>

太田教育長職務代理人： 試行期間の延長につきまして、私も賛成です。1年くらい試行しても良いと思います。今回お示しいただいたデータを見ても、試行期間が短いので市民の皆様の意見がよく分からないと感じています。

今回の試行で望ましい形としては、早めに開館することでより来館者を

太田教育長職務代理者： 見込むことだと思います。午前9時から10時頃は来館者の増加が少しあると思います。1つ言えるのは閉館時間の間際に入館している方が減っています。日が短くなって、皆さんが早めに帰宅しているということもあるかもしれませんが、民間の商業施設では閉店時間を早めると午後の来客数の減少が著しいです。24時間営業をしているスーパーがありますが、夜中にお客さんが増えるわけでは無く、24時間営業によって昼間のお客さんが増える効果があるようです。そのため閉館時間を早めたことで、昼間の来館者が減っている可能性もあるかもしれません。そのため、夏にも実施をして、日が長い時期にも試行をしていただきたいと思いました。そのため1年間くらいはデータを収集しても良いと思いました。ただししっかりと告知は必要だと思います。

小平教育委員： できれば24時間図書館が開いていると嬉しいですが、なかなか難しいと思います。

試行結果を曜日別に示していただくことは可能でしょうか。

事務局(増沢)： 可能です。

小平教育委員： 曜日によって利用の方法が異なる可能性もあるので、比較してみるのも有りかと思います。色々な可能性を考えると1年間試行してみるのの良いと思います。私も夏場と冬場で、どの程度影響が変わるか気になります。

学習室の利用状況に関連して、イルフプラザではよく学生さんを見かけますが、何時までやっているのでしょうか。

事務局(伊藤)： イルフプラザは9時30分まで開いています。

小平教育委員： そちらで学習する人も多いと思いますが、更に試行はしていただきたいです。

轟教育委員： 資料を拝見して、閉館時間後に利用を希望した人がどの程度いるのか、気になりました。例えば塾が無い日で、夜も利用したいと思っている人の意見等はあったのでしょうか。夜も開館することは非常に難しいとは思いますが、以前に息子が学習室に行ってみたらもう閉館していた、という出来事があったので。

藤森教育委員： 4か月の試行期間では読み取れない部分もありますので、試行期間の延長は賛成です。1年間くらいが良いと私も思います。18時30分に閉館時間が前倒しになったことが、利用者の皆さんに周知されてきて、開館時間に合わせて利用をしてくれる人もいます。

利用者の方へ、試行期間についてアンケート等で意見を出してもらったのでしょうか。

事務局(増沢)： アンケートは実施しておらず、カウンターでいただいた意見となっております。

事務局(増沢)： ります。

藤森教育委員： 可能なら、より利用者の声を集めた方が良いと思いますので、ご検討いただければ幸いです。

事務局(伊藤)： ご意見ありがとうございました。

一旦は最初に提案させていただいた通り、3月末まで試行期間を延長させていただきたいと思います。3月の定例教育委員会で結果をお示しさせていただき、更に延長した方が良いというご意見がありましたら、改めて検討をしたいと思います。

宮坂教育長： ありがとうございました。

本日の議題は以上となります。続いて、報告事項に入ります。

報告事項1「令和6年二十歳を祝う会について」を事務局より説明をお願いします。

○報告事項

1. 令和6年二十歳を祝う会について

<資料4に基づき、事務局より説明>

宮坂教育長： ありがとうございました。

次に報告事項2「年末年始休業中の学校完全閉庁日について」を事務局よりお願いします。

2. 年末年始休業中の学校完全閉庁日について

<資料5に基づき、事務局より説明>

宮坂教育長： ありがとうございました。

次に「その他」につきまして、事務局よりお願いします。

○その他

・行事等について(各課)

<各課より行事予定について説明>

宮坂教育長： ありがとうございます。

その他連絡事項等ありますでしょうか。

今までのところで何かご意見等はございますか。

本日本日予定しました議題は以上ですが、全体を通して何か質問等ございますか。

宮坂教育長： 教育委員さんから何か報告事項等ございますか。
それでは事務局より次回の開催予定についてお願いいたします。

事務局（両角）： 次回の定例教育委員会は
1月10日（水）15時から 岡谷市役所6階 605会議室を予定しています。
よろしくお願いいたします。

宮坂教育長： ありがとうございました。
以上をもちまして、本日の会議を終了とさせていただきます。

11時40分 終了